

最近特に、増えてきた事は、終活に関してのことです。終活とは自分の人生の終末のためにする活動のことです。私の寺でも御門徒が相談に来られます。終活が多くなってきた背景は、高齢になって終末に向けて身の回り事を清算する準備が必要になってきます。更に家族と離れて住んでいるのですべてのことを自ら決めて行う事になるのです。それを書面に残す必要があります。

例えば財産について預貯金がこの金融機関にある。年金はどの年金なのか、生命保険はどここの保険会社でどこに保険証券を保管しているか、不動産の処分などがあります、医療に関して、病気の告知や延命措置、苦痛を和らげる緩和ケア、認知症になつときやもしもの時に財産管理を任せる方、弁護士や親族を指名する必要があります。

葬儀について、葬儀の場所は自宅とするか、葬儀場とするか、お寺とするか決める、どんなお葬式にしたいか人数が少ないので家族葬するか一般的なお葬式にするか、火葬のみの直葬にするか判断しなければなりません。法名は生前に帰敬式を受けられ授かっているのか、亡くなったときにお寺様につけていただくのか。

お墓、納骨堂ついて、現在お墓や納骨堂が有るか無いか、有れば誰がそれを受け継ぐのか、無ければお墓、納骨堂求めるか、海にまく散骨、樹木葬、お寺の永代供養塔に収めるなど判断が求められます。お墓や納骨堂の継承者がいない場合は、墓を閉じて改葬しなければなりません。

自身の終活についていろいろなさつたとしても、今、あなたのいのちはどこに向かつて生きているのですか、このいのちの終活を解決しなければなりません。あなたが背負っている人生の苦悩や迷いだらけの生き方に寄り添って下さるのが阿弥陀様です。阿弥陀様はあなたのいのちを、迷いの世界から救いたいと願っておられるのです。阿弥陀様の救いの呼び声が南無阿弥陀仏の名号です。南無阿弥陀仏のお念仏に出逢うことが、迷いの世界に生きている私のいのちが阿弥陀様の浄土に生まれ、無量のいのちの仏様の身とならせていただくのです。しかも生きているうちに決定するのです。

終活についてお話させていただきました。

